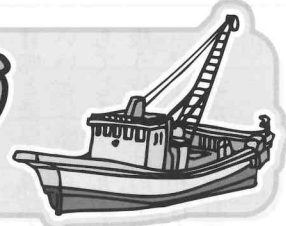




何でも兼^{うお}ツチング

No.64 『水産試験場今昔物語 その2』



今回は、今昔物語第二段『船編』です
(第一段は274号)。

過去の記録や古老らの話を総合すると、これまで試験場に所属した船は、その前身とも言える漁労指導事務所(大正13年3月まで)時代を含め下表の13隻のようです。最も古い「月山丸」は、本県にも入りつつあった焼玉発動機船で、本県の機船底曳網漁業を盛んにするきっかけとなった船です。沖合礁や佐渡あら場まで出動して漁労技術の指導や漁場開拓を行い、月山礁や向瀬・鎌礁を発見しました。次の「鳥海丸」は鳥海礁を発見した船ですが、試験場設立にもなつて所属船第1号となりました。船名を「鳥海」としている資料もあります。

ここまでは木造、焼玉船ですが、次の「もがみ丸」以降は鋼、ディーゼル船になります。船体が頑丈になり、馬力も増して行動範囲はさらに広がりました。太平洋での鮪延縄や沿海州での底曳、鱒流し網など沖合から遠洋まで多方面での調査を行いました。

「もがみ丸(初代)」は、地元漁船などと協力して最上堆の開発調査を行い、その漁場価値を明らかにしました。また、遠洋漁船員養成の実習船の役割も果たすなど本県漁業に多大な功績を残す一方、激動の時代(太平洋戦争)を経ていることもあって数々の逸話も残っています。

その後の「最上丸」は2代目、3代目と大型化しましたが、昭和52年からの200海里経済水域の設定にもない本県漁船の活躍の場も狭ばまり、また試験場に沿岸調査用の船がなくなったことなどにより、現在の4代目は小回りの利くコンパ

クトな船にとの考えから小型化しました。以上は、沖合・遠洋調査の船ですが、他にも沿岸、浅海調査用の船として6隻ありましたが、現在は最上丸で沿岸の調査も実施しています。そして、最上丸ではできないような調査には、漁船の協力を頂いております。さてさて、4代目も船歴17年となりそろそろ(もう)「オバアチャン」ですが、あつちこつち綻びてきた船体を騙しだまし乗組員共々、陸上職員や漁業者の要望(無理難題?)に応えるべく、日夜奮闘しています。これからも最上丸をよろしく願います。 水産試験場 副場長 阿部 幸

表 水産試験場所属船


調査海域	船名	期間	船質	トン数	エンジン	馬力
沿岸 沖合 遠洋	月山丸	大正4年~9年	木	12	焼玉	12
	鳥海(丸)	大正9年~昭和6年	木	38.94	焼玉	50
	もがみ丸	昭和6年9月~30年	鋼	77.92	ディーゼル	210
	2代目最上丸	昭和32年12月~48年	鋼	104.08	ディーゼル	270
	3代目最上丸	昭和49年3月~平成3年	鋼	136.49	ディーゼル	700
	4代目最上丸	平成4年1月~現在	鋼	98	ディーゼル	900
沿岸	庄内丸	昭和16年~21年	木	8.92	焼玉	15
	拓洋丸	昭和23年1月~35年7月	木	9.55	焼玉	25
	探洋丸	昭和35年~36年	木	14.67	焼玉	40
	月峯丸	昭和36年8月~45年	木	14.24	ディーゼル	60
浅海	かもめ号	昭和33年代前半~?	木	1	ガソリン	28
	ほかり	? ~昭和44年?	木	?	ディーゼル	?
	あらさき	? ~昭和50年代前半	木	?	船外機	?

※期間、トン数、馬力は諸説あるので参考程度

推進運動展開中

漁協灯油は

漁協灯油を **安心価格** で
お届けします。



品質と価格に自信があります。

最寄りの各支所でご注文承ります。

JF 山形県漁業協同組合

● 安全ですか? (あなたの作業) 安心ですか? (あなたの健康)